

安楽寺だより 第37号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話:03-3451-1509 FAX:03-3798-2238

発行者:藤澤 克己(安楽寺住職) ホームページ <http://www.anraku-ji.org/>

(安楽寺だよりは1月・4月・7月・10月に発行します)

輝かしい新時代を

平成最後の新年を迎えました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

お正月の掲示板には日本のヘレンケラーと言われた中村久子さんの句を掲げました。幼くして両手両足を失うなど厳しい境遇ながら、常に人としての誇りを失わなかった生きざまに心打たれる方です。「自分で生きているのではなく、生かされているのです」と言い切る中村さんの言葉は、新しい春を迎えた私たちに、いのちの真実をあらためて考えさせてくれます。



初日の出(お台場・青海より)

『初空の藍と茜と満たしあふ』

昭和の俳人・山口青邨の句です。元旦の朝、日の出前に藍色の空が広がり、その中に陽が昇って淡く茜色に染まっていく様子が見事に表現されていると思います。今年の初日の出もこの句のようでした。

私たちの社会も、これまでの時代から新しく輝かしい時代に調和しながら移り変わってほしいと願います。

《あれこれ抄》

▼冬の「安楽寺だより」をお届けします。▼年末に思い切った机と本棚の整理をしました▼散らかっていた机の上がきれいになり、新たな気持ちで新年を迎えることができました。▼昭和から平成に変わったのが、今この前に思えますが、今年元号が変わります▼元号の選定にあたっては団体や企業の名称に使われていないことにも留意するのだそうです。▼振り返って、昨年を表す漢字には「災」が選ばれました▼たしかに自然災害の多い一年でした▼いつ起きてもおかしくないことなので、一人ひとりが災害に備える意識を高めることが大切です。▼おかげさまで寺の者はみな元気に新しい年を迎えることができました▼本年もどうぞよろしくお願いたします。

ほうおんこう

安楽寺報恩講をお勤めしました



さる 11 月 10 日、安楽寺の「報恩講」をお勤めし多くの方にご参拝いただきました。約 750 年前に往生された親鸞聖人を偲び、念仏の道を明らかにしてくださったご恩に報いる法要です。

芝組の僧侶 6 名にも出仕していただき、前住職と住職も揃ってお勤めしました。



法要に続き成田善真師(横浜・善行寺)のお話を聴聞しました。

あるお婆さんが、一生懸命にお念仏するので、もしかしたら願い事を叶えてもらいたいのかなと尋ねてみたことがあったそうです。するとその方は「不思議ないのちをいただいて、ここまで長生きささせていただきました、有難いねえ、南無阿弥陀仏」と感謝の言葉を述べられたそうです。



「本願力にあひぬれば むなしくすぐるひとぞなき」というご和讃から、私たちはすでに阿弥陀さまの願い(本願力)に遇っており、そのことに気づくと穏やかな心持ちで過ごすことができるのですよ、と示してくださいました。



平成 30 年 安楽寺 総追悼法要のご報告

去る 12 月 23 日、昨年一年間に亡くなった方々の合同法要「安楽寺総追悼法要」を執り行いましたところ、3 家族 10 名の方が参列してくださいました。

法要に先立って、故人へのメッセージを書いていただき、事前にお預かりしたものと一緒に尊前にお供えしました。

法要では趣旨を仏さまに奉告する表白ひょうびやくの中で、亡くなった方々のお名前をお一人ずつ読み上げました。続いて「讚仏偈さんぶつげ」を

お勤めし、読経中にお焼香していただきました。亡き人に思いを馳せる尊い時間を過ごしていただけたと思います。

◇◇

その後、車座に座り直し、法要に参列しての感想や亡き人との思い出などをそれぞれに語っていただきました。

普段の生活ではなかなか語れないお気持ちを、阿弥陀さまの前だからと安心して話していただけたように思います。



「私たちのちかい」について

ご門主「ご親教」
しんきょう

2018（平成 30）年秋の法要における御門主のご法話（ご親教）の一部を紹介します。
2016（平成 28）年に発布したご親教「念仏者の生き方」の内容を、より親しみ、理解してほしいとの思いから「私たちのちかい」としてお示しくださったものです。

私たちのちかい



浄土真宗本願寺派第 25 代門主
大谷光淳 さま
(2018 年 11 月 23 日)

- 一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき
日々精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

年回法要(法事)のご案内

年回法要は亡き人のご命日を縁として、お勤めする「仏法行事」です。故人を偲び、生きている私たちが自らのいのちに思いを巡らせる尊いご縁です。

ご法事を機縁として、家族や親戚の方が集まってくだされば、仏さま(故人)もきっとお喜びになることでしょう。

どうぞみなさまでお参りください。



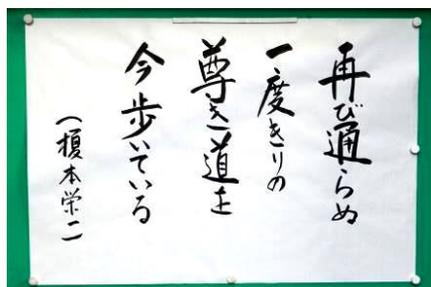
平成31(2019)年 年回表

五十回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	年回忌
昭和45年	昭和58年	昭和62年	平成5年	平成9年	平成15年	平成19年	平成25年	平成29年	平成30年	亡くなられた年

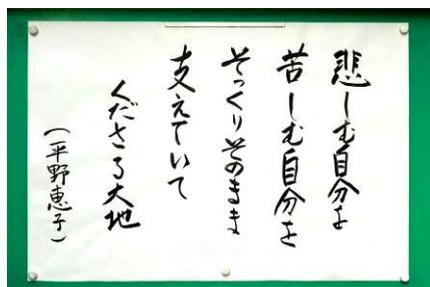
門信徒のみなさまにはだいたい 2 カ月前にお知らせするようにしていますが、今年が年回法要に当たる方は是非ご予約に入れておいてください。

月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

お寺の入り口の伝道掲示板に、その時々を言葉をかけています。 (筆：前住職)



2018 年 11 月



2018 年 12 月



2019 年 1 月

しばそ 芝組研修会が開催されました



去る 12 月 9 日(日)に芝組研修会が開催されました。「仏教徒としての「終活、」がテーマで、死を意識することで 生(今)を充実させることの意義を確認しました。講師の行政書士の方が、考えをまとめる方法の 1 つがエンディングノートの活用で「遺される人への思いやり、と定義されたのが印象的でした。

後半のワークでは、受け継いでもらいたい思いをそれぞれが文章に書いてみましたが、なかなか難しかったです。

当日の資料もありますので関心のある方にお渡しいたします。また、何か心配事がありましたら、ぜひご相談ください。一緒に考えさせていただきます。

《季節の思い出》



(秋の紅葉 撮影：金子 道也 さん)



(ビル街のイチョウ 12 月)



(安楽寺墓地の椿 1 月)

「定例法話会」の今後の予定 (毎月第 3 日曜日 午後 2 時～)

伝道掲示板の言葉をもとにお話させていただきます。いつでもご参加ください。

1 月 20 日(日) (2 月はお休みです) 3 月 17 日(日)